

協働をめざした援助チームにおける ミドルリーダー教員のファシリテーション

学籍番号 229212
氏名 重留 卓
主指導教員 平井美幸
副指導教員 瀧野揚三

第1章 緒言

特別支援学級（以下、支援学級とする）及び通級指導教室に在籍する児童の割合が年々増加し、ますます多様化する学校現場では、授業づくりにおいて、通常学級の担任（以下、学級担任とする）と特別支援学級の担任（以下、支援担任とする）が連携・協働を図っていくことはとても重要であると考える。しかし、多忙を極める勤務実態の中で、両者の連携・協働を十分に図していくことは容易なことではない。こうした背景から、ミドルリーダー教員が、両者の連携・協働を促進するファシリテーターとしての教育実践ができるかと考えた。また、さまざま問題や課題をチームとして取り組むことができないかと考えた。

そこで、本実践課題研究では、小学校における学級担任と支援担任の連携・協働を促進するミドルリーダーの役割を検討するために、ミドルリーダー教員によるファシリテーションを取り入れた援助チームによる実践から示唆を得ること、学級担任と支援担任の授業づくりにおける協働の考え方を明らかにすることを目的とした。そして、これらを通して、小学校における学級担任と支援担任の協働をめざした援助チームにおけるミドルリーダー教員のファシリテーターとしての実践を省察した。

第2章 チーム援助におけるミドルリーダーとしてのファシリテーションの実践

本章では、ミドルリーダー教員によるファシリテーションを取り入れた、援助チームによる実践に取り組むことを目的として、2つの実践を試みた。

1つ目は、学級担任と支援担任が、タブレット端末の「ロイロノート」に対象児童についての日常の情報を記録し、ミドルリーダー教員がファシリテーターとなり、ロイロノートをプラットフォームとして、学級担任と支援担任の連携・協働を図った。

2つ目は、学級担任と支援担任の連携・協働を図るための手段として、ロイロノートをプラットフォームにしている点は変わりないが、学級担任及び支援担任がロイロノートに直接記録せずに、ファシリテーターが「雑談」で聴き取った内容をロイロノートに記録した。

その結果、ミドルリーダー教員のファシリテーションにより、学級担任及び支援担任は日々の実践を整理し、メタ認知することができた。同時に、実践内容をシームレスに共有することで対象児童の理解を援助チーム全員で深めた。また、学級担任と支援担任は、ファシリテーターからカテゴライズされたキーワードに着目し、リフレーミングされた日々の実践を可視化しながらリフレクションすることができた。さらに、それにより対象児童の望ましい行動を引き

出したり、対象児童とのよりよい関わり方を見つけたりすることもできた。このように、学級担任も支援担任も対象児童へのアプローチや対応において成功体験を少しづつ積み重ねた。援助チームにおけるファシリテーションの実践を通して、それぞれの先生方の教育観や指導観、子どもも観等の違いにふれることができた。他方、こうした「観」の相違点はチーム援助の価値を創造することにもつながったと考えた。

第3章 授業づくりにおける担任の協働に関する質的研究

本章では、ミドルリーダー教員によるファシリテーションの参考にするため、小学校の学級担任と支援担任へのインタビュー調査から、小学校の学級担任と支援担任の授業づくりにおける協働の考え方を明らかにすることを目的として、対象者 14 名よりインタビューを用いて得た回答から質的記述的なコーディングを行い、テーマ分析を援用してカテゴリーに定義付けした。

本調査の結果、5つのカテゴリーが抽出された。このことから、【個別支援を充実させるための授業準備】や【特別な教育的ニーズのある子どもの支援】は、【教員同士の助け合いと保護者とのよりよい関係】及び、子どもが互いに支え認め合う【子どもの教育環境の整備】が築かれていく中で促進され、また、その中で【子どもの成功体験を促す関わり】も積み重ねられていくと考えられた。

第4章 成果及び課題

本実践課題研究におけるファシリテーションの実践では、以下の成果が得られたと考えた。

- ・ミドルリーダー教員としての力量形成につながった。
- ・ファシリテーターとして、学級担任と支援担任の記録を整理したり、リフレーミングしたり、教育実践の相互作用を促進させたりすることができた。
- ・抽出された5つのカテゴリーを授業づくりにおける学級担任と支援担任の協働の考え方として全体共有することで、よりよい授業づくりを創造することができた。

他方、本実践を持続可能なものにしていくためには、援助チームにおける学級担任と支援担任の連携・協働において「時間」の確保が課題である。この点は、それぞれの現場における働き方改革や業務改善が必須である。また、「人的資源」の確保も課題であるが、これは同時に「財源」を伴うものであるので現実的に一朝一夕に実現できるものではない。

教員相互が「観」を共有するという視点においては、管理職や同僚教員が納得感をもって共有できるかどうかについて考えるとき、その時間と場づくりも今後の課題である。

第5章 結論

小学校の援助チームにおけるミドルリーダー教員のファシリテーションにより、学級担任と支援担任の連携・協働を促進する実践的知見を得ることができた。また、学級担任と支援担任の授業づくりにおける協働の考え方を明らかにすることで、協働をめざした授業づくりにおける「観」という知見を得ることもできた。こうした実践を通して、ミドルリーダー教員のファシリテーションは、教員相互の教職力量を向上させていくという示唆を得た。